

プログラム手引書



目次

1. はじめに
2. 児童アンケートの実施について
3. 学級活動の実施について
4. 道徳科の実施について
5. 道徳科の手立てについて

1. はじめに



「プログラム手引書」って何？

この「プログラム手引書」は、授業プログラムによる学級活動・道徳科の授業を行う前に、授業プログラムの目指す児童像と授業の留意点の確認をするためのものです。

今回の授業プログラムでは、授業中に児童の前で「発達障害」という言葉は出ませんが、発達障害の説明や、発達障害に関わる事例を基に作成した教材を用いて授業を行います。授業プログラムの趣旨と留意点を理解していただき、よりよい実践へとつなげていただけると幸いです。



プログラムの目的は？

授業プログラムには、小学校の中学年向けと高学年向けの二つが用意されています。それぞれの児童に下記のような心情を育成することを目的としています。

中学年：相手によって関わり方を変えずに、分け隔てせずに様々な人と関わろうとする心情をもつ。

高学年：相手の立場に立って気持ちを考えて、相手のことを大切にしようとする心情をもつ。

この授業プログラムは、学級内で起きた問題の解決を目的にしたり、すぐに児童が行動を起こすことを目的としたりするものではありません。将来的に、相手の個性を尊重し、誰とでも対等の関係で関わり合える、共生社会を担っていくようになるための種を蒔くことを目指しています。

2. 児童アンケートの実施について

○児童アンケートは、授業プログラム実施の前に行いましょう

児童アンケート実施の目的は、授業プログラムの道徳科の導入で、本時への問題意識をもつためのきっかけとすることです。児童の変容を見取れるよう、授業プログラム実施の前に行いましょう。なお、以下に示されたアンケートの見取り方は、授業プログラムの目的を達成するための一例です。（研究で行った実践では、アンケートは Google Forms を用いて行っています。）

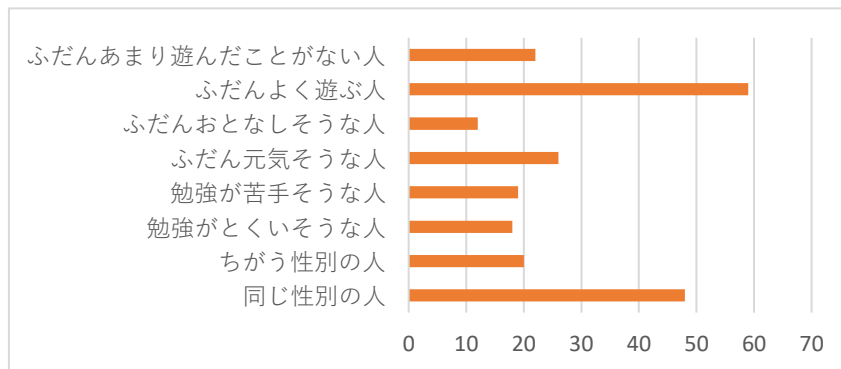
【道徳科の導入での活用の仕方】

（中学年用）

- ・それぞれの選択肢を選んだ人数を提示する
- ・なぜその人を選択したのか理由を尋ねる

問：授業の中で、意見を交流する場面があります。あなたはどのような人と交流しようと思いますか。
いくつ選んでもよいです。

提示例

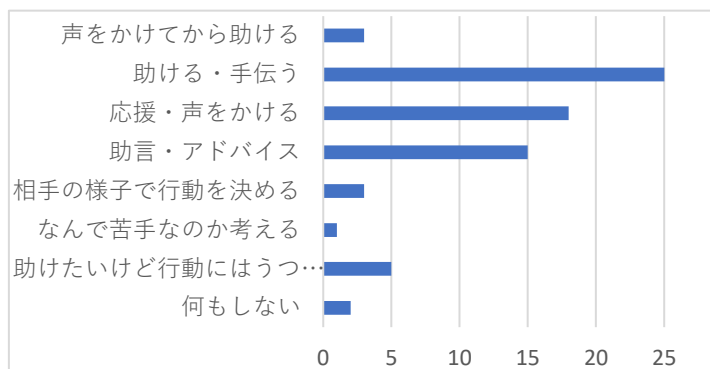


（高学年用）

- ・児童の記述を「助ける」「助けない」「見守る」など、いくつかに集約し、グラフなどで提示する
- ・それぞれの行動・思いの理由を尋ねる

問：苦手な活動でこまっているクラスメイトがいます。あなたはどうしますか。または、どう思いますか。

提示例



3. 学級活動の実施について

○発達障害という表現は使用しません

この授業プログラムでは児童が発達障害について授業者の意図とは異なる理解をしてしまうことを避けるために、児童の前では「発達障害」という表現は使用せず、「見えない大変さ」という表現で統一して授業を行います。(道徳科でも同様)

○「得意・苦手グラフ」への記入は事前に行っておきましょう

ワークシートの冒頭にある「得意・苦手グラフ」は、学級活動の授業導入で行うこともできますが、活動時間確保のために時間を見つけて事前に行っておくことをおすすめします。

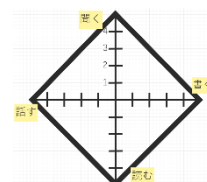


図:得意・苦手グラフ

○「発達障害類似体験」を事前を選択しておきましょう

「発達障害類似体験」では、事前に「聞こえづらさ」と「見えづらさ」のどちらを行うのか選択して行います。どちらもプレゼンテーションソフトを使用します。細かな操作の仕方は、プレゼンテーションソフトの「ノート」に提示されています。

○特性に関する基礎知識を確認しておきましょう

「発達障害類似体験」では、発達障害がある方の特性の一部を児童が体験し、その体験をきっかけとして様々な目に見えない大変さについて理解します。授業を行う前に、特性に関する以下に示す基礎知識を確認しておきましょう。

【聞こえづらさ体験について】

「聴覚過敏」の特性の一つを体験します。人の脳には、雑多な情報の中から自動的に必要なものだけを拾い出してくる機能があります。しかし、発達障害のある人は、聞こえてくる情報や刺激の取舍選択がうまくできず、不要な音まですべて気になったり、金属音などの特定の音が耳に刺さるように聞こえてきたりします。この症状は、疲れやストレスが溜まってくると強くなることが多く、日頃は気にならない人でも症状が表れることもあります。

【見えづらさ体験について】

「視覚過敏」の特性の一つ、文字や文が互いに重なって見えてしまうオーバーラップ現象と、水に浸したように文字がにじんで見えるぼやけ現象を体験します。この他にも、文字の背景の白い部分が明るく見えすぎたり、文字が反転して見えたり、文字がゆがんで見えたりする現象もあるようです。

〔「感覚の視点からのアセスメントと支援」『学校教育相談』(高橋あつ子 2023)より参考〕

○理想的な活動後の児童の心情を念頭に、授業を行いましょう

授業プログラムの指導案で示された授業の流れは、授業プログラムの目的を達成するための一例です。下記の「理想的な児童の心情」を参考に、授業者が柔軟に指導の方法をアレンジして下さい。ただし、指導案の指導の留意点内の(◎)印の手立てについては、授業プログラムの目的達成のためには欠かせない手立てとなっていますので、参考にいただければと思います。

理想的な児童の心情



○発達障害類似体験→「見えない大変さのある人がいるのだから、困っている時には手助けをしたい。」

○自分たちの得意・苦手グラフとの比較→「自分たちにも得意・苦手があり、見えない大変さのある人と大きな違いはないのだから、特別視してはいけない。」

4. 道徳科の実施について

○発達障害という表現は使用しません

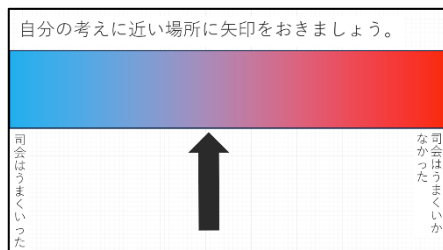
この授業プログラムでは児童が発達障害について授業者の意図とは異なる理解をしてしまうことを避けるために、児童の前では「発達障害」という表現は使用せず、「見えない大変さ」という表現で統一して授業を行います。(学級活動でも同様)

○児童アンケートを事前に行っておきましょう

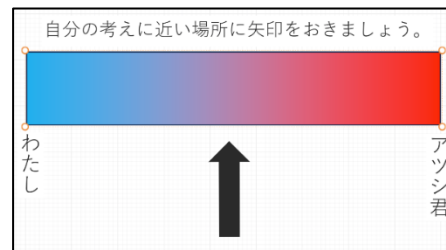
道徳科の授業の導入で児童に本時で扱う道徳的価値についての問題意識をもたせることを目的として、授業プログラムを用いた授業の前に児童アンケートをとります。10分程度で終わる内容なので、事前にアンケートをとって、結果を集計してから授業にのぞんでください。

○心情メーターを用意しておきましょう

この授業プログラムで用意された心情メーターが使用できない場合は、授業前に、自校の ICT の環境に合わせて、「心情メーター」(またはその代わりになるもの)を、下の図を参考にして作成しておきましょう。



図：心情メーター（中学年用）



図：心情メーター（高学年用）

○理想的な児童の心情を念頭に、授業を行いましょう

授業プログラムの指導案で示された授業の流れは、授業プログラムの目的を達成するための一例です。下記の「理想的な児童の心情」を参考に、授業者が柔軟に指導の方法をアレンジして下さい。ただし、指導案の指導の留意点内の(◎)印の手立てについては、授業プログラムの目的達成のためには欠かせない手立てとなっていますので、参考にいただければと思います。

指導案のより詳細な解説が、次項「5. 道徳科の手立てについて」に書かれています。解説されている手立てについては、指導案の「指導上の留意点」の欄に、(※)印で示されております。

理想的な児童の心情



○中学年授業後→「自分との関係性や、相手の特性に関係なく、人によって関わり方を変えないことが大事。」

○高学年授業後→「相手のことを思いやるには、相手のことをよく考えて、相手のことを大切に思って接することが大事。」

5. 道徳科の手立てについて

指導案の「指導上の留意点」欄の(※)印の手立てについて、詳細な解説をします。

【「2 教材文の範読を聞き、道徳的価値についての考えをもち、交流する。」の手立てについて】

○児童の思考を「道徳的価値の高い理想的な心情」に促せるよう、中心発問における児童の考えは以下の順で取り上げるようにしましょう

- ① 「児童の実態に近い心情」(心情メーター青)に共感する児童の考え
- ② ①の考えに対する「道徳的価値の高い理想的な心情」(心情メーター赤)に共感する児童の考え
- ③ ②の考えに対する「児童の実態に近い心情」(心情メーター青)に共感する児童の考え

○児童の考えが偏っている時は、教師が違う立場に立って発問を行いましょう

「児童の実態に近い心情」と「道徳的価値の高い理想的な心情」の二つの心情のどちらに共感するか、心情メーターを用いて立場を表明するとき、「道徳的価値が高い理想的な心情」に共感する児童が多くなってしまう可能性があります。その時は、教師が「児童の実態に近い心情」の立場に立って以下のような補助発問(一例です)をすることで、学級の児童の心情をゆさぶりましょう。

中学年

トモ君を一度指名した時、真面目に答えたように見えなかったのだから、主人公は間違っていないのではないですか？

高学年

苦手なことを得意な人が代わりにやってあげるのは、人助けなのではないですか？

【「3 めあてについてもう一度考える。」の手立てについて】

○めあてについて考えを聞き、導入時と比較して考えが深まっていることを教師が価値付けましょう

[中学年での価値付けの例] めあて:「公平にせつするために大切なことは何だろう」

導入 → 展開後半

特別扱いしない

決めつけない

人によって考え方をかえない

教師の価値付けの例

その人との仲の良さで行動をかえたり、見た目や行動だけでその人のことを判断したりしないようにすると、特別扱いなどをしなくなるのですね

[高学年での価値付けの例] めあて:「相手を思いやるために大切なことは何だろう」

導入 → 展開後半

優しくする

相手のことを考えてから行動する

教師の価値付けの例

優しくするだけではなくて、その人のことを考え、その人のためになることをすると、相手を思いやるということになるということですね